

2月14日 東京訴訟第5回期日@東京地裁 傍聴レポート

☆大変遅くってしまいましたが●●傍聴報告です。

2月14日 有楽町イトシア前でチョコ付チラシ配りはパスして裁判所前、160人が抽選に並びました。また！外れ。連敗記録更新。でも傍聴券譲って頂きました。

原告さんは高校2年生16歳。中1の時、2回目のワクチン接種後から明らかな異変を自覚しました。ラーメンがのみこめなくなり、片足で身体が支えられなくなり、這って部屋に帰った…さすがにおかしいと入院して、医師から「ワクチンのせいかも」と言われた。それから、息が出来なくなる程の全身の激痛などがあることを訴えていました。

彼女は見た目もボーイッシュで、運動が得意で、身体を動かすことが大好きで、学校に行くのが大好きだと言っていました。中学での修学旅行は諦めたけど、運動会とか出来ないなんて思わないで（思えなかったのかも）参加したとのことでした。

それでも通学は身体的にも厳しくなり、高校は通信制ですが、定期的に登校のある（スクーリング）ところを選びました。学校に通って友人たちと会って話たり、一緒に過ごすことを望んでいたからです。

16歳の彼女は言っていました。成人式には絶対良くなって、元気になった姿を友達に見せて、驚かせたい…。被害者はみんな、良くなりたいと本当に思っていること、大人たちに助けて欲しいと訴えていました。

‘心身の反応’なのだ…とか、本気で言っているのだろうか。そんな言葉で一件落着きたいなことしないで、ワクチン接種後に彼女たちに起きたとんでもないことや、彼女たちの訴えに目をそらさず、手を差しのべるのが、大人たちのすべきことなのに…

4年後の成人式、彼女の夢、本当に実現して欲しいなと思います。

裁判、学習会など、彼女たちの話を聞く機会があれば、是非、参加してください。

ご本人たち（家族、友人も含め）の言葉で、被害の実態を知って欲しいと思います。



2月16日（金）学習会「ミニゼミ in 東京/HPV ワクチン薬害被害を学ぶ」

♡IKE・Biz としま産業振興プラザ-旧豊島勤福 @14:00~16:30

◇お話：副作用被害の実態を原告さん・訴訟の争点をめぐって弁護士さんより
♪♪薬害を学ぶ一環として、薬学生さん、多くの方に参加して頂きました♪♪

☆感想文から☆☆

正直な話し、HPV ワクチンの副反応については、接種部の疼痛のことは知っていましたが、重層な被害に関しては全く聞いたことがありませんでした。

被害者の方は私と同年代の特に変わりのない普通の女の子の子と思いました。しかし、実際は副反応による激しい痛み、倦怠感、多岐にわたる症状や苦しみと闘っている方でした。もしかしたら、このワクチンをうった私の友人、姉がこのような苦しみを味わったのかもしれないのです。

そのことに気づいた時、私は彼女の話の人ごととして聞くことはできなくなりました。もちろん彼女自身は私の身内ではないです。しかし、そんなことは関係なくなりました。

治療の後の交流会として、彼女の思いを聞きました。同年代の人に知ってもらえる、支援を考えてもらえるだけで嬉しいというお話がありました。

今後彼女のような薬の被害で苦しむ人をなくすために何ができるだろうかと考えさせられる、とても良い経験でした。



薬いろいろ●●○キソニン＞OTC

2010年にスイッチOTCとなって早8年。月日の経つのは早いものですね●●秋でもないのにシミシミ。少し前の話になりますが、2016年に○キソニン錠の副作用と注意に「陽閉塞」のことが追記されました。えっ、○キソニンで陽閉塞？と思いつつも、消化器に対する微弱な炎症を繰り返すことにより起こす、という副作用機序を考えると当然という気がします。厚労省の症例一覧で検索してみると、'08年と、'11年に各1件、'13年に5件、'16年に4件ありました。OTCが使用された症例は挙がっていませんでしたが、スイッチ化でアクセスが良くなったけど、副作用発現へのアクセスも良くなったということが無いようにしたいですね。特にOTCに関しては、余計な口をしっかりと出せるのは薬剤師だけになります。医師の判断を薬剤師がチェックするというシステムが無いので、これは重要なことですね。